

2019-2020年度国際ロータリーテーマ／ロータリーは世界をつなぐ

vol.
1217

2019・2020
MEETING

山形中央
ロータリークラブ
WEEKLY REPORT
YAMAGATA CENTRAL



CLUB NEWS

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日12:30～13:30(但し第5週は18:30～) 会場 ホテルメトロポリタン山形

- | | | |
|----------------|---------------|----------------------------|
| ■ 会長 伊藤 和子 | ■ 職業奉仕 武田 晃士 | ■ 副幹事 玉ノ井 憲史 |
| ■ 会長エレクト 小林 敏郎 | ■ 社会奉仕 板垣 喜代志 | ■ 会計 漆山 芳弘 |
| ■ 副会長 長橋 正人 | ■ 青少年奉仕 鹿野 淳一 | ■ S A A 玉ノ井 憲史 |
| ■ 直前会長 中川 清美 | ■ 国際奉仕 丹野 秀樹 | 国際ロータリー会長 マーク・エドワーズ (米 国) |
| ■ クラブ管理運営 斎藤 真 | ■ 幹事 相川 博昭 | 第2800地区ガバナー 大久保 章宏 (山形 南) |
| | | 第5ブロックガバナー補佐 遠藤 隆一 (山形 中央) |



◆日時／2020.1.21 12:30 ◆例会場／ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング／国歌・奉仕の理想

会長挨拶



皆様こんにちは。本日は佐竹猛さんより新入会員卓話を頂きます。佐竹さんは、山形商工会議所青年部で会長を務められ、日本一の芋煮会ではギネスに挑戦するなど、数多くの功績を残されています。後程、お話をどうぞよろしくお願いたします。私も25年前、新入会員卓話と

入会して数年後に1度卓話をした経験がありますが、最初はとても緊張しました。しかし、会長としての挨拶よりは緊張しなかったように思います。やはり、責任の重さでしょうか？ 緊張しまくりです。

さて、1月は「職業奉仕月間」です。先週の続きを、お話をさせていただきます。私が現在の仕事を始めた昭和50年代はグランドホテルさんとオーヌマホテルさんだけがシティホテルでした。当時はまだ芸者さんや酌婦さんがたくさんいらした時代です。結婚式もホテルで挙げるなどの認識はあまりない時でした。私も護国神社で挙式したくらいですから。

創業当初は、とにかくバンケットという現代的な宴会もそこにお客様への接客サービスをやるコンパニオンが介在するなどということが殆ど知られていない時代でした。昭和56年にホテルキャスルができ、幸いにも総支配人が都会の一流ホテル勤務経験者であったので、すぐにご理解を頂き、宴会場をお借りしてスタッフ研修を行い、企業や団体にはホテル営業マンと一緒に外向きパーティーコンパニオンが入った新しい宴会を提案して顧客開拓を行いました。平成が始まったころは、ロイヤルバンケットのスタッフ数は登録が150名程いまして1回の大きいパーティには50名を出せ

るくらいでしたが、現在は半数くらいになっています。

全国では大手と言いますと、東京バンケットプロデュースが一番でニューバンケットは帝国ホテルの資本が入ったところになります。大阪、京都、福岡、名古屋その次に仙台あたりになります。

バンケット業界のオーナーは、仕事柄か女性経営者が主体でしたが現在は男性経営者が多くなっています。また、業界も後継問題があり昨年は、全国大会で後継についてのセミナーを開催しております。弊社の後継は同族ではないので「パネラー」として要請がありまして経緯など話を致しました。後継するまでは5年計画で後継する社長を口説き、会社を無借金で渡す約束をして社長になってもらいました。本人もだいぶ悩んでの結論でした。新社長はは香川県の出身で千葉の大学を卒業後、ホテルオークラに勤務し、結婚した奥様が寒河江の方でしたので、寒河江で暮らすことになり縁あって弊社に入社しました。地元出身でないために、外堀から埋めることにして、JCや銀行の会など積極的に入会して人脈を作ってもらい、友人やお客様との信頼関係を築いてもらいました。将来は継続していかなくても良いと話していますし、新社長も60歳前後で退職しても構わないと思っています。次の夢に向かって多くの退職金を自ら作り人生を楽しんで欲しいと考えています。ともあれ、私自身は人に恵まれた仕事人生であったと思います。仕事の信条としては「同業他社から人を引き抜かない」ということでしょうか。飲食店をしていたころから、それは守っています。

では、今日はこれで会長挨拶とさせていただきます。

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	39名	—	25名	—
修正出席	39名	30名	29名	96.67%
他クラブでメイクアップされた会員	(山形東) 伊藤寿史 (山形北) 鹿野淳一 (山形西) 鹿野淳一			

新会員卓話



佐竹 猛会員

今日は、貴重な例会の時間をいただきありがとうございます。あらためまして、昨年の7月に入会いたしました。有限会社三協電気工事の佐竹猛と申します。今日は、私の会社の歩みと、私が生まれてから入会までのお話しさせていただきます。面白い話ではありませんが、お付き合いいただきたくお願いいたします。

まずは、わが社のことをお話しさせていただきます。会社の話をする前に、三協電気工事を開業した私の父である佐竹幸雄の話を少しさせていただきます。本人は嫌がると思いますので聞いたことは内緒にお願いいたします。父は東京の浅草で昭和18年に長男として生まれ、すぐに東京大空襲にあい、祖父の実家である朝日町に疎開してきました。因みに朝日町には佐竹の姓が沢山居ます。中学生の時、病気で祖父が亡くし、祖母と下の兄弟3人を食べさせるため丁稚の為に東京に出たそうです。その後、山形に戻り、花楯にありました高正電気では修業をし、電気工事の道に入ったそうです。当時の高正電気では東照電気の長澤社長や栗原専務も同僚だったそうです。昭和45年に勤めていた会社から独立し、個人経営の電気工事店から始めました。ちなみに私はまだ生まれていません。その後、現在の山形県庁舎の建設事に携わるなどし、色々な方からの助けもあり昭和54年に法人格となり山形市内の下条町にて有限会社三協電気工事を開業し、翌年の昭和55年に電気工業として建設業許可も取得いたしました。社名の由来は法人格にすると3人で始めたから三協電気工事にしたと聞いています。そして昭和54年から39年目の平成30年に私が代表取締役を就任し今日に至ります。

昭和54年の開業より今年で40年を迎えた当社ですが、現在は、役員2名、職人3名(50歳、41歳、28歳)、見習い1名、事務員2名で営業しております。仕事を頂戴している先は、山形県、山形市等の入札や随契での公共工事の請負工事や、市内の建設会社様、工務店様や個人の方々など多くのお客様とお付き合いさせて頂いております。父がお客様と身近にお付き合いし、下請け業者を使うことなく自社で施工し、自社の技術とサービスを提供する職人気質の父らしいこだわりが、お客様との信用と信頼を得ることができ、今日までの堅実な経営に繋がっているのだと思います。目の届く仕事をし

たいがため会社の規模は大きくありませんが、当社は社員一人一人がお客様から喜んで頂ける技術と確実な仕事を提供できる会社に成長していると思っていますし、これからも新しい技術者を育てていきたいと考えています。

次に当社の業務を説明させて頂きたいと思います。屋内での電気工事を主として行っておりますが、簡単に電気工事をご説明させていただきますと、皆さんの会社や住居に付いています、照明器具やスイッチ、コンセントなどの器具の取付や、その器具へ電気を送る為の電線を伸ばし、接続し、様々な電気機器に安全に電源を送り、使用できるようにする仕事です。家庭の電気工事などは、プラスとマイナスしかないので、小学校の時に習った理科の実験の延長で少し知識があればできるのかもしれませんが。但し、それを10年、20年と安全にお使い頂く為に様々な法令を順守し、専門の技術を必要とする為、電気工事をする者は国家資格が必要となります。建物を人間に例えますと、肉体は建築工事が作ります。臓器などは衛生設備工事、電気工事はその肉体や臓器を動かすために必要な栄養や血液をおくる為の循環器をつくる仕事と私は思っています。そしてお客様はすべてに指令を送る脳となり、建物は命を宿します。そんな素晴らしい仕事に従事できていることに誇りと喜びを持って日々仕事に励んでいます。

新築の電気工事の他としましては、事務所や飲食店、工場等の設備機器の電源や制御の配管配線工事やIHクッキングヒーターや、エコキュート工事等のオール電化工事などを行っています。また、最近ですと蛍光管が各メーカー生産終了となっていることもあり照明器具のLED化や、昭和32年～47年製造の高力率照明器具の安定器に含まれる毒性が懸念されていますPCB含有調査なども行っています。

また、不動産や個人のお客様からのブレーカが落ちて電気が付かない等の急な漏電調査及び修繕やテレビが映らなくなったなどの電気設備に関するトラブルの調査、修繕などを行っています。皆さんが電気に関してお困りの際は、同業であります奥山社長にご相談いただき、社長が忙しい時などは、たまに私にお電話いただければと思います。

業務内容として細かい仕事が沢山あるので大まかにご紹介させていただきました。会社の概要についてはここまでとさせて頂き、次に私のことについてお話しさせていただきます。

生まれは昭和48年6月24日に父幸雄、母みち子の長男として山形市内の大沼病院にて誕生いたしました。先日紅白で話題になりました美空ひばりの命日や、

松田聖子と神田正輝の結婚記念日と同じ日です。因みに兄弟は1つ下の妹と3つ下の弟がいます。弟も同業のユアテックにて現場監督をしております。

生まれた時は3600gとまあまあ大きかったです。成長期は母のお腹の中で止まってしまったらしく、今もですが保育園、小学校、中学校、高校と列の一番前にいましたので前習えの時は横習えをしていました。小さい方は分かると思いますが大きい方には分からない話です。

昭和54年有限会社三協電気工事が開業した年に山形市立第七小学校へ入学しました。小学生のころは、色々な習いごとをさせてもらっていました。ピアノを2年くらいで先生が怖く嫌いになり終了。水泳を1年くらいでプールは寒くて耐えられず終了。少林寺拳法を3年、中学校の部活が忙しくいけなくなり足が遠のきました。スポ少では4年生でバレーボールに入部しましたが夕方の練習でお腹がすくので終了。6年生でサッカー好きでしたが違う目標ができ終了。習いたいと言った記憶はありませんが、今にしてみれば色々させて頂き感謝していますが長続きせずダメな子供で両親には申し訳なく思ってます。

第七小学校で6年間を過ごし、昭和60年に山形市立第二中学校へ入学、部活はバスケットボール部に入りました。入部理由はバスケットをすれば背が伸びると思ったからです。これがサッカーを辞めた目的でした。3年間続けましたが分かったことがあります、バスケットをすれば伸びるのではなく大きい人間がバスケットをしていることに後々気が付きました。お陰様で背はほとんど変わりませんでした。良かったこともありました。毎日10キロ走らせていられたので足はそれなりに速かったこと、高校受験時に顧問先生から推薦してもらえたことです。推薦入学面接試験の練習をするまで将来について考えたことはありませんでしたが、なぜこの学校を選んだんですか？の問いに考えることになりました。本心は公立であればどこでも良かったのです。父から公立を落ちたら三協電気に入れと言われていたので、その時は冗談じゃないと思い勉強していましたが、いざ入学試験の解答は、父の仕事をする姿を見て自分も同じ道に進みたいと思ったから、という回答になりました。皮肉にも冗談じゃないと思っていたことが一番の模範解答でした。その時から多分、自分自身に暗示を掛けていたのかもしれない。実際そうになっていますし、模範解答の効き目は分かりませんが、試験は合格し、平成元年に山形県立山形工業高等学校電気科に入学いたしました。ここが私のターニングポイントの一つです。

入学した電気科は電気に関する専門教科の他に、中学

レベルの5教科があり、テスト時は12科目あった時もありましたが、1クラスしかないので特に競争も無い3年間で赤点無く進級できれば良いと思っていましたので成績は可もなく不可もなくといったところでした。

部活では、推薦をしていただいたバスケットボール部に3年間所属しましたが、やはり背が伸びることはありませんでした。高校生活ではもちろん勉学の他に大人になる為の大切なことを先輩や仲間たちと学びました。大人の嗜みである麻雀に酒やタバコ等色々ことや、デパートや飲食店などでのアルバイトで接客対応や基本的な挨拶に時間を守るといった社会の常識など色々なことを学んだ3年間でした。

卒業が近づき将来を考えた時、実家を継ぐ意思がなくなっていたのかもしれない。大学進学はせずに、電気工事の会社に就職することに決めました。高校に来ていた求人からユアテックを選び校内選抜も通り願書を出す寸前に、学校側が事前に連絡した際、電気工事店の息子は要らないと受ける前からお断りされました。その3年後に私の弟はユアテックに入社しましたので本当の不採用の理由については分からないままです。その後なんとか他社を探し平成4年に仙台にある振興電気株式会社東北支店に入社しました。そこで現場代理人として6年間学んできました。その時、たずさわった工事は名取にある宮城県立がんセンター新築工事、八乙女にある大和マンションの110戸と野村マンションの145戸の新築工事、財務省官舎の改修工事、宮城県教育会館フォレスト仙台新築工事、最後にワールドカップの会場になりました利府の宮城スタジアム新築工事と大きい仕事に携わることができ仕事への向合い方や面白さ、真っ暗な建物に照明が点灯する感動等を教えて頂きましたが、仕事は大変きついことが多かった。当時は今の様な働き方改革なんてものは存在せず、現場代理人は日中は工事を管理する為に、現場に貼り付き、職人さんが帰ってから施工図の作成や打合せ書類の作成など膨大な仕事があり、朝6時半に家を出て8時から現場朝礼、日中は現場、18時から図面作成、24時前に帰れば良いといった生活が当たり前だったので残業時間に土日も足すとひと月超過時間が150時間を超えることはざらな仕事環境でした。上杉鷹山公の言葉に「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」その言葉をいつも繰り返し頭の中で言い自分を鼓舞し頑張っていました。そんないい言葉も今の働き方改革の前にはブラックワードなのでしょうが、おかげで出来ないことなんてことはなくて、出来ないとはやらないだけ、言い訳せずにやれば何でもできると思って乗り越えられました。6年が過ぎ、仙台で遊び過ぎるのを心配したので

しょうか父から帰ってくることを打診され、お世話になった会社とも相談し平成11年の5月に、山形に帰ってきました。因みに、その時煙草を1日30本吸っていましたがいい機会と思いきっぱり辞めました。それから1本も吸っていません。

帰って直ぐのころは正直、仕事に対して悩みました。分かってはいましたがいままで数千万、数億規模の仕事からあまりにも違う現状と仕事のやり方の違いや、突然帰ってきたただの社長の息子としての自分の立場によくわからなくなっていました。そんなもやもやしているとき、偶然かどうかはわかりませんが、小野建設の小野社長から商工会議所青年部に入ってみないかとのお誘いを頂き、平成12年の8月に入会しました。何もわからず初めて参加した例会が日本一の芋煮会フェスティバルでした。仙台で仕事をしているときニュースに映っていたものだと行って初めて知りました。そんな程度の認識での入会でしたので、当初は只のイベントが好きな人が集まってワイワイやっている団体としか思っていないでした。ここにいらっしゃる青年部の先輩方には申し訳なく思っていますが、まあその程度の認識で活動していたので当然、当時の私を知っている先輩程、まさか会長になるなんて信じられないのと、大変心配なさったと思います。当の私も微塵も思っていないでした。ただ長い時間青年部活動していると責任ある役職を任せられ、色々な先輩方としっかりお話しさせて頂いていると会の意義や綱領や指針を理解していく機会が増え、いつの間にか後輩達に先輩から教えて頂いたことを伝える重要性に気付くことができ、会長に推薦され立候補をし、平成28年度の27代目会長に就任いたしました。その1年は私にとってかけがえのない1年でした。4月の総会後の懇親会での最初の会長挨拶で、準備不足もありましたが言葉が飛んでしまい、忘れたので挨拶が終わってしまった大失態からのスタートでしたが、商工会議所の会頭や副会頭からの温かいご指導や応援を頂けたり、商工会議所の職員の皆様やOBの先輩方にも沢山教えて頂く機会があり、宝物の時間を頂戴しました。ここに居られるのもその時のご指導をいただけたお陰とっております。

青年部在籍時でのお話としてもう一つ、3代目大鍋についてお話しさせて頂きたいと思います。3代目大鍋製作の計画は平成27年に日本一の芋煮会フェスティバル実行委員長だった長瀬さんが2代目の製作から20年が過ぎた平成25年からは毎年検査を行い鍋を修繕を行いながら使用してきましたが、毎年の検査費用と修繕で200万近くが掛かっており、日本一の芋煮会をこの先続けて行くのであれば、30回の記念大会に向けて3

代目を製作できないものかとの発案があり、国土交通省、山形県、山形市、商工会議所、青年部OBの代表者で計画についての是非について1年間話し合い、最終的には協議会にて審議を頂きスタートいたしました。

28年度は発案者の長瀬さんが代表としてスタートしましたが、鍋の製作会社の代表でもあり、利益相反になる為、会長の任期を終え、副代表をしていた私が29年度から代表として進むことになりました。色々なエピソードは割愛いたしますが、平成30年に無事完成お披露目にこぎつけたことは記憶に新しいと思います。最終的な金額ですが、鍋の製作費2700万にモニュメント台座改修費、大鍋移送費、試験炊き費、広報費を合わせて最終支出が約5000万掛かりました。金額を聞くと驚かれると思います。私も携わっていなければ驚きますし、呆れていたと思います。ただ支出金額のことよりその金額を大きく凌駕するご協力を頂いたことに私は驚きと、この山形の可能性に感動いたしました。収入の内訳を簡単にお話ししますと、話題にもなりました、山形市長を代表者とした山形市では初の試みとなりましたガバメントクラウドファンディングです。大鍋の製作費である2700万を目標に平成29年10月末から12月26日までの約2か月間で行いました。駅の改札前や市役所ロビーでのピラ配りなど地道にPRを行いました。2700万もの金額を正直、寄付として頂けるのか不安満載の見えない活動でしたが、最終的には963名の皆様から3000万を超える寄付を頂戴いたしました。頂いた金額も驚きですが、PRをしているときの皆さんの好意的な言葉を沢山頂戴できたのが何よりの喜びとなりその先の活動の大きな糧となりました。山形市、山形県、商工会議所からの負担金として3300万、企業様個人様から協賛金2700万、山形市内の小中学校生からのプルタブ募金での10万と山形を愛する皆さんから6000万を超えるご協力を頂くことができました。無茶と思えた計画でしたが、行政の協力とか青年部がどうかではなく、山形のことが大好きな沢山の方からのご協力により日本一の大鍋を製作できたことは、これからの山形の可能性を示したことだと思っております。青年部のころの話はこのくらいになります。

昨年の7月に入会させていただき、まだよくわからないこともあったりで不良会員ごみですが、今後は諸先輩の背中を見て勉強させて頂き、山形中央ロータリークラブを通して地域に貢献できるよう務めてまいりたいと思いますのでご指導の程よろしく願いいたします。非常に聞きづらい話をお聴きいただきありがとうございます。私も早く席に戻りたいのでこれにて終了とさせていただきます。